

2018年2月2日

(公財)日本対がん協会 会長 垣添 忠生 76歳の挑戦

「全国縦断 がんサバイバー支援ウォーク」実施

期 間:2018年2月5日(月)～2018年7月23日(月)予定

訪問先:全国がんセンター協議会【全がん協】加盟32病院

2人に1人ががんになる時代。がんと診断された人(がんサバイバー)は約700万人を下らないとみられています。しかし、病気の実態や患者の悩みも周知されておらず、就労や生活、心のケアなど、がんサバイバーの支援は不十分なままです。この度、自らも大腸がんと腎がんのサバイバーである日本対がん協会会長の垣添忠生は、2月5日から約半年かけて、全国がんセンター協議会の加盟32病院を行脚し、より多くの「がんサバイバー支援」を訴える「全国縦断 がんサバイバー支援ウォーク」を実施することを決意しました。

2月5日の九州がんセンター(福岡市)を皮切りに、7月23日の北海道がんセンター(札幌市)に向け、一部交通機関を利用するものの、体調と日程が許す限り、概ね歩いて回っていきます。総移動距離は約3500キロ。訪問先周辺の患者会関係者とも一緒に歩くなどして、全国のサバイバーにエールを送るとともに、国民に広く、サバイバー支援を呼びかける、76歳の大きな挑戦です。

日本対がん協会では、昨年6月に、がん患者を孤立させないために、ウェブサイトでの情報発信や患者交流イベントの開催などを行う「がんサバイバー・クラブ」を立ち上げました。患者や家族、友人が寄り添い、仲間同士が支え合う場になることを目指しています。全国行脚では、がんサバイバー・クラブへの参加や支援も呼びかけていきます。

* 訪問先と訪問日程、ウォークの状況など詳細は、特設サイト(<https://www.gsclub.jp/walk>)をご覧ください。



垣添忠生(かきぞえただお)プロフィール
 1941年大阪生まれ、1967年東京大学医学部医学科卒業。泌尿器科を専攻し、1975年より国立がんセンター泌尿器科医員。1992年中央病院長。2002年国立がんセンター総長。2007年定年退職し、現在は公益財団法人日本対がん協会会長。高松宮妃癌研究基金学術賞、日本医師会医学賞、瑞宝重光章などを受賞。著書に『妻を看取る日』(新潮社)、『悲しみの中にいるあなたへの処方箋』(新潮社)、『巡礼日記-亡き妻と歩いた600キロ』(中央公論新社)など

訪問予定の 全がん協加盟施設

合計:32



公益財団法人日本対がん協会 概要

名称: 公益財団法人 日本対がん協会 (Japan Cancer Society)

所在地: 〒104-0061

東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階

設立: 1958年8月1日

設立趣旨: 日本対がん協会は1958年(昭和33年)8月、がんの早期発見や早期治療、生活習慣の改善によって、「がん撲滅」を目指そうという趣旨で設立されました。

会長: 垣添 忠生(元国立がんセンター総長)

主な活動: がん検診の推進、がん知識の普及・啓発、がん無料相談、がん教育、ピンクリボンフェスティバル、リレー・フォー・ライフ等

本件に関するお問い合わせは下記にお願いします

■公益財団法人日本対がん協会
担当: 横山(yokoyama@jcancer.jp)
上田(ueda@jcancer.jp)
TEL: 03-3541-4771(代表)